俳風柳多留 九編

へ9
1147
19

京都帝國大學圖書之印

19

へ 9特
1147
19

月柳評辰春角力會三會入

俳諧柳樽稿

淺下境

吳陵軒著

[illegible]
[illegible]
[illegible]

どうとうの道筋し満でひかるを
京町へ引ずとくらんこうやくぶ番
をつい五十ゝ五ひ十二枚
どの泊りでも淀川のおやぢいる
はのくるおがびろう光へ寄らいぢゝしき
ちの光ゝ川とめ引ずの出ぐちより
西おちへすてゝ八ちから月見ゆう
傘をちりくるもりかくもかし
屋ゝさびと泊るゝゝ松のなる浦

やはりこの事くゝ二三日さんが出
ちんぐくゝ他ゝもうんが引ずる
ぢりゝくゝていの西のかゝる来ゝ
人中とゝらとゝいもがるやゝいろ
おくゝゝられていく後ゝやかゝ出ゝ
きん酒おゝゝゝて四国を進うゝる
ちゝ一ゝ元やまゝく母をおうゝ
かずのおくひゝやゝかゝ下ゝのかゝ
ちんくつの中ゝちゝでゝを里ゝ

ぶ〻〻〻

かりうしで滅田はど傷さうの所
以外遅三文でするは海外うる
芸屋しいそ事　世中かげはし
他ふかしおすまりうの集て侍る
いらく銀りはへの海原
春ふがいちゝ下もと初舟ぶり
年新酒かしり入りくいが書
既うしのとうるうへふして紙
酒へら山今でを物の目なて

世房のいとすがつけさ　銀
ゆ月ふをはしけさ白のを　けてやさ
屋を酒らけておやゞんを売はあり
そりりやはがてんこよくも肥て
石弁を所かすけしぬけ
世房紙をやを手て変くアやして
いさうるし三光てわられこと
らい音とさくめら代うけくしを
美屋新をなでるへするびふく店

中宿へ出家くと入れしてやがて
大門へさうさのそと入るみぐるやかさ
ひづらしい判らの物語る茅うに山
寺の下おへ行けてかつ行くら
中ゐゐりすると世のさへふるて
洞てしもどしるるすると石と日
なおさうすてるし掘ふかぐしけるく
ふらしさお兵行しらかりおる
世ゐけしてきいせいの中のよさ

ふるとあてて居るのとなぐへうば
ちらちらちらしなうと姫見る
ひすると和尚ちとせ人一度こし
淡のなる思をして居て松の四
古まばのさんはけおてはけ
なにとくおんろり就四こ海り
それ若ちゑどさかうんしく
とやいしやえのうへ体と注
仙人ゐ海行とゆまるでだるおし

めう五人程とおしてさりてまち
月ひをおやじ　小云の　立所く
いのちハの主所にまたさふ所じ
死人の山でも神をまてんのうち
恙で　所ハ　を　ハかくがう
初うの日如月日かしへんつる
面やうりいおとりとうあさ
うけさぞしまちいこてくわし
こぶひのおもいさと　ゆをを居ら

きらきらさらてかへちがくうん
中の町さいさかる男ゝ　なさ
若い七はとうしあ屋くおけふさき
万男とさはをもおの　妻ばかり
屋と動けさるしをさのん　師匠
立ぎハ今為ることやうて四へ入り
所ハ白砂浜をぞのみん〳〵ゆ
とうわる二さいて居ます　と立る
うう海をどゝ　おてもむ為ゝ　の山

いせ物へ唐人
人ゝうゝうゝ
ゆとゝゝゝゝ
屋ゝ毎ゝゝゝ
ゝゝの物毎ゝ
九十川ゝの
ちんがはゝゝ
いゝゝゝ
ゝゝ川ゝゝ

唐人の衣ぶの
ゝゝゝゝ
ゝゝゝゝ
ゝゝゝゝ
ゝゝゝゝ
ゝゝゝゝ
ゝゝゝゝ
ゝゝゝゝ

面白の中ゝ川あゝふてゝゝ
ゝゝゝゝ
ゝ辞ゝゝゝ
ゝゝゝゝ
ゝゝゝゝ
ゝゝゝゝ
ゝゝゝゝ
ゝゝゝゝ
ゝゝゝゝ

ふくりとふとりさしこみ切
おつやをさがされぬやうにあちこち
すいぶんはくりゝばかりそりいざとして
つんを西ゝ嗜みしゆゝせ第
ちんとぼ姫のつぐりてそらかすち
当ぐらしやいとのやめして
いろはまやかさうちぐくれかかて
目をぬしとうぶ〳〵おくりぶん
枝をへを二本三本出して画
げるあかとつぐでうくえやかり
ぶしあをうとうしかかしかかるる
ぶしあを花のかかかを目でかり
目さんてさろセもの細かめ法を出し
なのをうをうさ〳〵円武の細えを
円かぶをうちやへえをうにあさ
花姫ををやををかん海の者へ半〳〵
元つをもちかをうかをうて今し屋
花の面のちちを後生のさたかり

まつしの板ばやはいてゝあり
はりいとぐるもしするひしのせい
そうんぢい出るまゝりゝ毎ハ松ぐかさ
はぶかりて爺、ゑしが小笠原
弟いそくのいゝぐん面がくまてくく
そんじてる四ふそぐるの神が書
そんぐゝさ九一へ浦さそんかふさ
そとそうあハゝゝそのぎどくかり
ゝぐ小笠原ゝ毎ゑいきよさも
ゝきさと佐ゝ弓小わるなり
小兄いそゝゝぐゝぐきかゝゝ立
あゝとたゝきこどもの用くろぐよ
いゝちよ弟命の世をしすゝかちも
やゝゝゝて世ぐさのするゝ泊そん
鼓ゝ人ゝぞゝしすゝこと ゑゝさ
お中とそうんでくれゝ茅さとゝさ
馬のゝゝ人のゝそうんてくぐうかゝを
いとつりぎたゝゼゝゝ赤ぐゝら

ものいとやうやうふかくなり
やくざかふちくぶのろぐんふかさき
る世話をさんぶ布て目くふえふ
るぜうをせるけくぐらでたいこば
ち花を大樹ろうぐの石ぐんる
をうしさ見へどてくとかえすく
をしけをこ三ぶ者ぐ子ぐさな
まいくさを表ちすきいくく
をとかるいで表ぬ大ぐまる
ぐんへしけぶんぐんぐんぐんぐん
さんぶくく花ぐでいるびぬく
いもいてしぬせゆをせいるぬ姿
百人の中ふ目いるくきく人居ら
京七いかるるぬきて琴ぐ花ん
ぬ毎くぐんてせぐんやすくつみ
塚ふさけるぬ仏ぬむかく今の京
音かるくぬの中へまをふ出ら
ぐぬ西るぐん見せぐをせんをとし

泊のかしらも又へゆき出ばの
とちごろ〳〵井筒こうゐ迄
大三十日〳〵ゆびを折
あり〳〵歌をやかまあさ〳〵迄
御〇毎のそうちん歌の中へ
面のそうあ〳〵初ばたらの
改るがいらぐ〳〵ひ
天がひを言ば世中のもやうし
江の海へかれて有る所ゑ

まんゐの海面を引くハあわり
やう面〳〵さ作くのゐが船を拾
いひ面如ふとき人をかたち
こいろさとおてらく居る雪の波
さやく〳〵走キ小汐ゆ世ゆ行うる
中船へ波のかんきを形迄馬
大やうら面ぐおくふう出さの
岩笛の海ゐ面ゐ岸をくしく
を列のいらびをくらぐ〳〵

[illegible]
[illegible]の意人[illegible]
[illegible]母のてていふ[illegible]
せうんゝ母とびら迷の事いおこ
[illegible]かゝ[illegible]のだちんをいなは[illegible]
[illegible]のかりとうれうく
計とのむしらかあらもでちらしお
いさかゝでいふ[illegible]
はゝづさとういふ[illegible]

[illegible]房と[illegible]
[illegible]所のさゝく[illegible]
縄でおちるとハ国イのこゝいうり
[illegible]ろ祇[illegible]
おゝゝさ母のおゝく信ハいのんんぐや
おうしゝしふうの蛇とうらおう
あみくのこゝのく門戸[illegible]
不定とハ誠いゝゝ[illegible]
うう縄へ[illegible]と節とおゝ

あるじめのぶ子姫を十九く
引ものもあまたあるべく姫
君の方さいつきるべく年ごとに
上るものどもんそをはるかおもう
さんがハ女房四とらとおぜ申しを
方ときれく方ときとにいるるく又初
はるづき合をやめれく四いきん
是場所のさざハるとろるまろく
もてなさんにいるべきでおんでる

かぐこそぎを代もぞんじてゐまち
四ハ小事ハうるく男くれ者
綱とゐりさせくさるやあたらば
絵のおっかくるなとるおとまを
ぞまとはりの男がはまてみげ
度く後家小ハ馬の四ちく
唐去せんもむくぞやくの尾四しい
四ハ四ちるうる清ゑ柱へくし
おんるくづるんかるるる 掛 大工

おきゝしじが時おもひもよらぬ事をきゝ
ゆゝしくつゝいらるゝ金をとゝ〳〵すて
五日しかり神をぬぎ捨 れ 神おそ
ひゝさんを男をゝゝとてをゝり
ゆゝ入をかゝ門てゐいみて 門
をゝたがのゐゝ唐人 ゆのおつさ
おりゝゐぐ門をゝをゝるゐゝ
きゝおつゝぐゝ 打ゐゝ えゝゐゝ
今 以 三日おゐ京でゆゆ

大ぜいの唐人ゝ者ゐを人事
をゝゐゝ神おゐ門てをゐゐつさ
をゝれゐゐゝさゝがゝいつゐぐ馬
今のかゝさんいゐゐゝゝゝ
おやゆひとゝ売をおゐゐゐ
ゆゐゐのゐ編 おゝ カぐゝ ゐゐ
神をゝものが二交いのゐいて二三人
張ひゝいみ十軍をゝのゐゐひ ゐ
中系の沿 ゆき 店でやゝをゝ

おほ川さとの〜いと日小 大三十日
えいとの法さも〜〜そいあまらく
茶とのんでるもあらやうき指
一ぢちがおぢの月ぢんとてぐ
四月の書をいろはでおいせ者
ちぐ〜 和尚 人をうしかちん
かちう〜れうげ〜ぢんいるちん
はおれ〜うてうかちつく
ひり指と下ぢちうち指き指

孫が出来〜〜いきかおぐ者
辻書ハうづとおい日小て居る
うかうもえうらいつと出て見やま
枝ぢとのおれ〜おくり
切かしあ〜やちふとあまてぬる
口上がちうづいさおうしうべてやうや
おちうん一交ふるうらうやうじこせ
ちうぢんうを方代切ふちあ指き
御指ともかをしく貴代 うが

うらでめ　くれ　家人　おちぶれ
ちゝまんのちゝまんとこのゆくゑをたづね
今小日が南ちゝ　なのてばゝと　ゆ
るとなるゝ　○とゝて行えしの上
紙帳の四へ　まなのさうつきの
村芝居せりふ　ふとちるてしの
桃太郎くらし　三文で　かい
きぬうぐさ　ちんぐさの法代おくそぢ
海ん中がゝ　くもんちゝえかつを
石ちえ　ちひと　いまてめる　形り
三角い　回ちゝ　ちのぐひつこ
ぐるでも　ちうの　舟が　乳　かつを
山ちゝの　中　法　月　式　おいちゝ
下ゆ　ゑらつり　でちとそゝおづき
ほたうと　伯父　ちんちゝちゝんをいる
おうちんで　ちふ　法ちうつゝるすうちん
ぐゆが　ぞゆちとつげゝう　ちえ大ちり
ちうびゝハ　中ぐゝちんのぐつ　し

死んが舌先へ出てくるとそれを
くしらの方とそこへて屋をおいてくれたり
四方のしとつれてくれたくそんぐやうくくく
こそくくそんふつうらいているそちらかみ
うとそんくくおあるれのかはそのの
ゝ京ゝこわるとそんぐいぐる
欲奥のぐそんとはこやくり〳〵かそこ
おくりて本のあるのあるやうの
ひらやくそんそのかえてそくまる

おでむくとそこへ人西ようらいて
車屋の如申のゆゝそんのかるる出る
高くぐそんのやうかたんすやぐやくを出
くゝゝ出かくとゝくゝがのづうさ
そんてやくぐそすそんの西そこ
四年の子孫らいくゝ出る四方
西方のにそやくり出そんを加おちる
こらい紙で見れて高くれそうなり
孫もくぐるとかそひて出かくゝ

ぞうふ沢しくなつついのをはらし武者
ぶい義の中へ入ると沢をむらうちを
やすいち場あるあり人ぶ弟
子ふたりつれてこふいてとくなりつる
ぶ田を引き人の多い言ふ沢
地人の出酒を人のする紙でくと
ちんぐ合いうしてきおのこくく
まんのなりるへもおげる一部半
ちいらいべらのおやぶ酒をすみ城
おのてるのさいきふつ変かいさ弟
業として許金の寿ら弟よめ
波ら〳〵えとく女えうをうきをしり
ちいはぐのさぶん毎かやだちまり
月の二ツなるひむが来くぶひり
ぶりちくなしてうへる弟家老
ぶろいてやまいら弟へのほどぶい弟
かやく〳〵やうちぶん同ちハぐんとつ
ちやハまんとぶ弟てそ人まる

やんごとなくて、えんだのもを、ゑ、
ゆゑ、そのいちはが、しをだいて、行
かしこまりて、あくるあしらく、門く、嶋
いるのの、そこいぶ、うれ、こぶのとかい
目ゑう、ゑ、ゑ、ハ、ゆ、こもちぶ、ゑ
ふ、ゑ、ゑ、ゑ、ゑ、ぶ、のとゆゑ、ゑ、
ゆ、ゑ、ゑ、ゑ、ゑ、ゑ、ゑ、ゑ、ゑ、
いよかう、ゑ、ゑ、ゑ、ゑ、ゑ、ゑ、ゑ、
ゑ、ゑ、ゑ、ゑ、ゑ、ゑ、ゑ、ゑ、ゑ、

ゑ、ゑ、ゑ、ゑ、ゑ、ゑ、ゑ、ゑ、ゑ、
ゑ、ゑ、ゑ、ゑ、ゑ、ゑ、ゑ、ゑ、ゑ、
ゑ、ゑ、ゑ、ゑ、ゑ、ゑ、ゑ、ゑ、ゑ、
ゑ、ゑ、ゑ、ゑ、ゑ、ゑ、ゑ、ゑ、ゑ、
ゑ、ゑ、ゑ、ゑ、ゑ、ゑ、ゑ、ゑ、ゑ、
ゑ、ゑ、ゑ、ゑ、ゑ、ゑ、ゑ、ゑ、ゑ、
ゑ、ゑ、ゑ、ゑ、ゑ、ゑ、ゑ、ゑ、ゑ、
ゑ、ゑ、ゑ、ゑ、ゑ、ゑ、ゑ、ゑ、ゑ、

ちんさよりちとくげとる大一文
ていのつ馬どちぼうと 浦三位
すきんといけ時ゝ四角のかざいおお
ひさごんの こゝぐ 第で居ごさし
きちちのごん世ゝの二ごんでへとう
えんさきはゝ又ゝ 少佐
ゝの門亜をけ さり
ゝさつゝふきひせいゝ
ふえゝひきゝすゝ 四角

ふきゝ あゝ さゝ とゝ ゝゝ
えゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ 所ゝ
ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ は
ちちゝ 亜のゝゝ 下あく ほゝ 戎
ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ 月 ゝ
ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ
ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ
ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ
ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ ゝゝ

[illegible]
[illegible]
[illegible]

書とゝり紙とすぐんり上る
見のてゝうせもゝとゆれ酒のみ
おゝゝしゝゝゝ

いかつけとぶのこゝろ　宗祇
このいとちりぬるかぜ
ちるもぞくるほろくるくさ
秋のはんゆゑ　大きか法師か
はるふとしけふ　かりてすてるかば
ゆしつぎとかくせんぐ　西行
いとんするそばかり　ひとえつ
ほくばうとおゝろ　ぞうんくし
いとうしかるしあ　里てすらしか

ちばしりさかてつでう　西行
はこうしゝ　ゆとそ　ゆとさ　半亞
ゑ代のろしハそゝく　かくめ
ゆ出来て　浅ぎんけら大　祇
首ゝ首ゝ　ぞくんでくとよの　海
元でかつつこ　海しゝ　ゆ
ぐゆハ川へせん　ふとでさかり
ゆしゝりてかゝ　でくろ町
ゆゝりゝ　世房そ　いあそ　宗　言

ひとりかへ　たとへ
やぶいしやのもとを　きうしゅ　まる
こまつ　ふとこと　出屋　ぢん
しれるのでは　こんれ　ちさへ　ゝり
くれるこいとめ　ぐけ　ゝけ　ゝける
かでさん出うん　ゝと　ゝせいを　ゝり
こはいよ　めゝと　横ゝ　ゝり　ゝいて　森る
ほろかゝ　こんと　ゝて　ゝまぐ　ふる
ほ去　ゝ奈　ゝいし　和向　ゝとこ　ゝ

ちくぶ　ゝ　ぐ　ゝけが　去　合　ふ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝんぢの　老　を　かゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝる
ゝ家　ぐ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

かくばかりとつて[illegible]を立て居る
三角目やうの物かけさやう
うこと也と記小見[illegible]酒田ハ北びく
人也しつて也といつて[illegible]
そとに引仕[illegible]くらでまをかのひ
高原て物ぐ下ふさ山月峰
福[illegible]てして居[illegible]
年しにふと筆とさ[illegible]
はんこうかりられるものの
[illegible]

麦さくでもいちあきなとかる井沢
三角めきの行ぐいらざる
ひいかく出物をつくり出してやる
なこんの出らいりをうまるすく
拾あとしてれて毋を作けるぶ
ぐかてもきいれうたかぶ居るかよ
もやちしとうるもいて出る出家花
文張まぐうこふ作ひかる
おとぜかうんやらと亟ろまうまる

[illegible]
やこよりこどいはうきめまるる
ちんを祈ぐり和ほうきの[illegible]
いんらん[illegible]ぐ[illegible]いもかさの寺
為行とみこのぞ諸式はしらきめ
切ッ先とをなへてきら田ひ川
わらの葉ちいのあ紙うもやまいなし
石をでかめのこ祝ひうへるる
やすみりぶ[illegible]ねとをるるやを

出ふ母ひざをでいきまり 武三人
もしめづの母くまめしれ祝をひ
いとまちん主主がむすめ気ちまだ
をのせぶ八 系をを 人ぶ紙を
出ふく流を和の引をでいちんなり
佛師屋をしても弘法へえをく
お蕃国を 一ち ひちへ 母ちに
お西下絵の書ちよをよろぶへる
十三日月出ちく 四をかえにく

うすがきやそうくとで為こゝ迄今ぞ
ゑ川の初めしがひするうんの浅さ
はまとかゝ本初めぞへきて
きしいのきれ〳〵徳ふ為こゝも
かゝ初のぜゑと為ふ〳〵肉蒙
絵の強めりそく初るゑ〳〵目かが
するが丁そさ浦ぬきんでぶんぢく
三どうとさぶうもとふ人のよさ
美かゝゑ川〳〵ゑる不化の湯

そうどかけうぢでさゆとそしばう浅母
浦きするめいるのかちハくちへいと
変りいてかゝうゑ市の馬〳〵
ゆくゝ屋びとにみ人きゑこ
ふきぶんの大ゑ〳〵をかゝゑるう母
ふぐいきひぶで初内ゑりけさ
色りゝのゆぶゝけきにせて
沙ち殿そかげ浦と為ひめゝいこと
ぶがけ為ゑゝとゝいてゑぢるちり

大うふやさしいで来とやうこうのく
のどいくハいいそのつきるはさいはうぶ
やさめーとほうだりかで来さとこ
ぶ房かゆとせくゆしば ほりて出ぶ
ゑぶせーをうびとうけてぐ なり
とひ月ぶ くは図ろうけるぶ
ゑのらほうさ安く陽ゑくこうまと
伝のれハ ゑひとがこうり ゐし
筆の先 代ゑくり世界ゑり

履春花角力會

僅上

星運堂
蓬秀堂

ゑひきハ対ぶ茅ハこうハいゑる 近江蓮亀若
強河四とハ時てこうゑつけさり 櫻木、大挿
生綱ゑ陽ゑこうて蓋ゑ系 水仙連
くとかゑてちうとゑうハ古風く 櫻木、カ名
ゑ面出さんふゑるのハゑ四ゑくゑ 八重垣、中葉
ゑ面ゑうゑ年見ゑさんて来ゑし 櫻木 大柳
梅のゑ面ゑばかっく 陽ゑ ゑ系門 水仙連
不二ゑくゑかれくゑ 強小百ゑ 櫻木、カ名

松がえ小ゑてかれて　ぞのゝ　玉垣、和歌
ふるとしのゝ　ぶのゝ　夫　切〻見せのを　櫻木、カタル
そ人　家〻　さが　ゆ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　転　仝　大神
雨上り　ゆ〻　ゝ　波　戎　ゆ　ゝ　ゝ　ゝ　近江、連
梅のひゆ〻　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　櫻木、木綿
毛毬　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　八重遠、金竜
ゝ　ゝ　ん　で　浴　し　ゝ　の　香　ゝ　ゝ　ゝ　櫻木、芳文
お　ゝ　ゝ　さ　ゝ　ゝ　ゝ　門　で　ゝ　お　ゝ　ゝ　ひ　梅、運丁
百　山　の　ゝ　ゝ　日　も　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　櫻木、子春

ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　

安くしへ紫式部と引ける　柳水　玉藻
極楽のでいもに紅梅　櫻木　木綿
ちとしやの一象　武蔵　十口
近いこれさそうと　吉野のいでゆ　櫻木　木綿
三年を経過　実もあり　白石　孤声
青ふくさとさそうもの　近江　鬱泉
うぢ川は紅葉の名所　水仙　連
はいかいをしへんとて俳歌をこと　櫻木　其松
さん仏はさそうもの　梅　青城

浜藻のをさを　城東　櫻木　葛故
紅葉をのいりて奥引をのふる色　八重垣　中集
お房て　こびをくる大いぐら　櫻木　麹車
ひかしてもこの　ふ　不蓬来　藤子
時をふとい　をを　教師　櫻木　木綿
十万八千房　毎日　四　向　柳水　石波
をびをふをもやで　櫻木　萬三
いろは　をくらんあいをのは　柳水　石波
もろのくどをやうん　櫻木　木綿

山雪を厚の清きうらふる雪　仝　大柳

大かたの佛を世紀　はめて居る　八重垣　孤声

あおとうこ　清江

大あくのうらへとうでらふ成日　櫻木　玉二

たえの庭中　松とさして居る　水仙連

ひとむら　日かのひ利りをして居る　櫻木　丑扇

ちえの部　ひすちうち　仝　蔦故

春之　清水　蓮花　のぶ　蔦故

目つ　ぶ　八重垣　七葉

立ぶく　居る　清水　清水の　俄　面

ホト　絵の　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　同　仝

おとうあ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　水仙連

ぶ三月　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　伊呂波蔦故

ぶ今月　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　櫻木　春松

ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　飛鳥　万跡

ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　櫻木　力丸

紙　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　蓬来　丑扇

ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　ぶ　櫻木　力丸

三人でさいかをふりとる　伊呂波素廣

うんかいとぐるりとして吹きたて

角力會二會目

きとをたてかくかいしが　国安　光　勢海　右編

くつかぶりごし　唐衣　あく　浦　金地　森海

横綱のでこ部屋の　横綱　玉垣

仕合さきをやみ　年　立て　仕　御　玉垣

見かけの　ばしこし　横浦ごと　横綱　力光

勢ふりえきふりとる　右　浦海

ふりとる　ふりとる　右　浦海

八月と師走　一京　出　立　京川

横綱　毎　一　ちやいと　枝が出る　横綱　力光

唐　一　ちやいと　神　玉垣　立　玉垣

百姓と年の数　ちら　古風　月　京　風呂

城を売もせぬ　一　京　此　立　京川

吸ふ　唐のおとを　行　立　横綱　玉垣

池源日ものでおて　吸ふ　立　力光

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

和歌こゝろざし　後鳥羽院　[illegible]　八重垣金花
細工ゝ[illegible]　[illegible]　[illegible]　橘本英文
[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]
むかしゝ[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]
武士一諸[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]
代金[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]
後鳥羽[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]

山つゝじ　[illegible]　八重垣[illegible]
[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]
紙[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]

角力會三會目

新[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　橘本英文
[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]
[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]　[illegible]

[illegible]ふさ――て唐橋亜相
[illegible]方へ参らられぬおすめへ[illegible]
すぐんがりてとぞ[illegible]
もーそかんりんずを下りて並仝 今
[illegible]近く咲きたちろん 笠原 [illegible]
[illegible]ぞ切 正 橋本素行
[illegible]つくべつしつらまや 梅 [illegible]
雪のそとは[illegible]れぬで 並 [illegible]
[illegible]ちむそせうんと知[illegible]る橋本芳丈

きまへ[illegible]名代がんるぐ走ぐん 柳ら 至禪
すり祇く一ぺいのんじ[illegible]花紙[illegible]る 橋本芳枝
[illegible]ぐくと[illegible]ある 大さ[illegible]て[illegible]る 仝 [illegible]
小船てもんりり白[illegible] 紙の山 柳ら 石斧
北ぬからとと見せ[illegible]八 卦 橋本素行
結ひきうあ 汐干がたのとかるく 宛[illegible]
きついあ 同じ 松了 十三 歩 仝 [illegible]
祝てむとやとつふ[illegible]ぐ 三舎め 橋本[illegible]
石二のすとぞんば[illegible]神の[illegible]あり 仝 [illegible]

おりて　まるやさしく　美成ぐり　柳ら　ゝ羅
いでゝ　ゝのえせん　ゝ　ゝ　ゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

今日は是切　炭の中で　[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]が赤いくくりまいやぬく 折り[illegible]
おきやかげれ右たり 宿をさたがり 梅 [illegible]
けのくふ[illegible]るの八のそうもらくく 柳葉 法蓮
海ごぜくくをとたらちんでたやせいござ
きもれるもらくおしいまあてし 柳葉 [illegible]
天ちくのがくくんてかもを 李流
ちもかくもくと庵ちでおやし 雪門 [illegible]
ちんくのかくおきそれいいぬく 柳葉 [illegible]
[illegible]ぼし 拾文のかくきもそちく

此発句 洞のうちのがしをて 白 并文
裏地ちし和とおもてやはい柳ちの并
海のうんくいてそをのびとおり
すいさくてひろさのりふ法

拾九篇終 角力會三會結

天保四年
辰 仲冬 [illegible]

吳陵著

余加

○俳諧風書品目録　江都上野山王祭　花屋蔦次郎

俳風柳樽選下冊　川柳柳点句明治代分
四季恵都好市編作者録付

同川傍柳　森川柳点　同やちの舎　川柳点
二篇

同柳句程多之連句篇　江戸五文字柳句競点者
六編四冊　点句自筆句　押絵著

黄表紙　五文字柳句陽明文庫蔵
小説　言はずもがなの事

同　春雨庵宝蔵寺屋
柳句五文字　江戸山東京伝著

同　百千鳥　歌舞伎
連歌柳句集

俳諧[illegible]　[illegible]